

# 令和3年度 富良野市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は複合経営が多く、様々な作物を作付している。

農家の高齢化等により農家戸数の減少が進み、野菜などの高い収益が望まれる作物は働き手の確保が難しく、面積の減少が懸念されている。

また、畑作物に関しては他の地域と比べて単収の低さが懸念となっている。

本地域は酪農も盛んであり、家畜頭数は増加傾向にあるが、飼料作物の確保と家畜糞尿の有効利用が進んでいない状況である。

## 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本地域において収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、産地交付金を活用しながら、主食用米と比較して面積あたりの所得が高い野菜等の高収益作物や、地域の特長である複合経営を維持するのに必要となる土地利用型作物等を加えた輪作体系の構築により、経営の安定・発展を図ることが重要である。

また、粘土質の土壌が多いことから透排水性対策等による生産基盤の改善や、農業施設の再編合理化や施設運営の効率化による生産コスト低減、共選・共販の強化や出荷期間・販売地域の拡大などにより、産地力の強化を図ることも必要である。

今後、多様なニーズに対応した競争力のある農畜産物の計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地づくりを一層進めるため、「水田農業高収益化推進計画」の策定を検討する。

輸出等の新たな市場の開拓については、GAPやHACCPの取組を推進し、実需者が求める安全・安心な生産と工程の「見える化」を進めてく。

意欲的な農業者として位置付けている認定農業者へ農地集積を進めながら、上川農業改良普及センター富良野支所で作成している「富良野地域生産技術体系」に沿った取組の推進や、スマート農業等の省力・低コスト生産技術の導入により、産地全体の収益力向上を図る。

## 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要の減少傾向が続くことが想定されるなか、農地の排水性の改善、集積等に計画的に取り組むためにも、「人・農地プラン」に描かれた地域の将来像や効率的な土地利用に配慮しつつ、畑作物の本作化を検討する。

水田の利用状況について関係機関が連携して点検等を実施しているが、水稻以外の品目が作付けられている水田については、今後水稻作付に活用される見込みがあることを確認しているところである。

今年度（令和3年度）、水田の畑地化の取組はないが、今後を見据え検討することが必要と考えており、また個々の農業者からの畑地化の意向はあるが圃場が点在しており、活用のためには一定程度まとまった農地での取り組みが必要となることから、農業者に対して畑地化に係る支援内容の情報提供や、地域の対応方針についての話し合いの場づくりや助言を行い、議論を深めていく。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

需給状況を踏まえつつ、生産の目安に沿った作付面積を維持する。

### (2) 備蓄米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

### (3) 非主食用米

#### ア 飼料用米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

#### イ 米粉用米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

#### ウ 新市場開拓用米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

#### エ WCS用稲

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

#### オ 加工用米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を維持する。

### (4) 麦、大豆、てん菜、飼料作物

麦・大豆・てん菜は、適期防除など収量の向上に資する取組を行い、単収の増を図る。

飼料作物は、頭数の増加による飼料の確保と堆肥散布に対応するため、有畜農家への集積と資源循環の取組を推進する。

### (5) そば、なたね

適期防除など収量の向上に資する取組を行い、単収の増を図る。

### (6) 高収益作物（園芸作物、豆類（大豆除く）等）

農家収入の安定、および消費者ニーズに応える多品目による生産体制を維持・拡大する。

#### ・メロン、西瓜、ミニトマト、スイートコーン

この品目は実需者からのニーズが高く、産地の特色を活かしながら、重点振興作物として作付面積の拡大を図る。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度 作付面積等 (ha)	当年度の 作付予定面積等 (ha)	令和5年度の 作付目標面積等 (ha)
主食用米	607	592	593
備蓄米			
飼料用米		1	
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
麦	698	698	698
大豆	59	60	62
飼料作物（自給）	299	300	302
・子実用とうもろこし			
飼料作物（耕畜）	271	272	274
・子実用とうもろこし			
そば	20	21	23
なたね		0.5	0.5
高収益作物			
・野菜	978	978	978
・メロン、西瓜、 ミニトマト、スイートコーン	195	200	208
・花き	0.2	0.5	0.5
・果樹		0.5	0.5
・その他の高収益作物 （豆類（大豆除く）、こんにゃく）	17	17	17
その他			
・てん菜	86	87	87
畑地化	0	0	0

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	野菜、ばれいしょ、 果樹、花き、豆類（大 豆除く）、こんにゃく	高収益作物助成	作付面積	(2020年度) 1190ha	(2023年度) 1204ha
2	メロン、西瓜、ミトマ、 スイートコーン	重点振興作物助成	作付面積	(2020年度) 195ha	(2023年度) 208ha
3	てん菜	単収向上対策助成	作付面積 単収	(2020年度) 86ha 6,132kg/10a	(2023年度) 87ha 6,410kg/10a
4	てん菜	直播栽培助成	作付面積 直播率	(2020年度) 86ha 45.1%	(2023年度) 87ha 55.0%
5	大豆	単収向上対策助成	作付面積 単収	(2020年度) 59ha 171kg/10a	(2023年度) 62ha 227kg/10a
6	麦	単収向上対策助成	作付面積 単収	(2020年度) 698ha 417kg/10a	(2023年度) 698ha 493kg/10a
7	そば	単収向上対策助成	作付面積 単収	(2020年度) 20ha 91kg/10a	(2023年度) 23ha 91kg/10a
8	飼料作物	飼料作物の自給率 向上対策助成	作付面積 自給率	(2020年度) 299ha 66.0%	(2023年度) 302ha 70.30%
9	飼料作物	資源循環 (耕畜連携) 助成	作付面積 取組面積 自給率	(2020年度) 570ha 271ha 66.0%	(2023年度) 576ha 274ha 70.30%
10	野菜、ばれいしょ、 果樹、花き、豆類（大 豆を含まない）、こん にゃく	土づくりによる 収益力向上対策 加算助成	作付面積 取組面積 単収（玉葱）	(2020年度) 1190ha 16.7ha 5,920kg/10a	(2023年度) 1204ha 20ha 6,101kg/10a
11	てん菜、大豆、 麦、そば	土づくりによる 収益力向上対策 加算助成	作付面積 取組面積 単収 てん菜 大豆 麦 そば	(2020年度) 864ha 19.2ha 6,132kg/10a 171kg/10a 417kg/10a 91kg/10a	(2023年度) 870ha 32ha 6,410kg/10a 227kg/10a 493kg/10a 91kg/10a
12	そば	そば作付助成	作付面積	(2020年度) 20ha	(2023年度) 23ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。